

「釧路市水道管路更新基本方針」を策定しました

問合せ 市上下水道部水道整備課建設担当 (☎43-2163)

日本の水道管路について

私たちが暮らす日本の水道は、蛇口をひねればいつでも清潔で安全な水が出てくる世界に誇れる施設です。

日本の水道普及率は、1964(昭和39)年の東京オリンピック開催時には約50パーセント程度でしたが、その後の10年程度で約80パーセントに達し、現在では100パーセント近くにまでなっています。

このように、集中的に整備されてきた日本の水道管路は、今後、急速に老朽化が進み、一斉に更新が必要な時期を迎え、多額の更新費用が必要になってくるものと見られています。

基本方針策定の目的

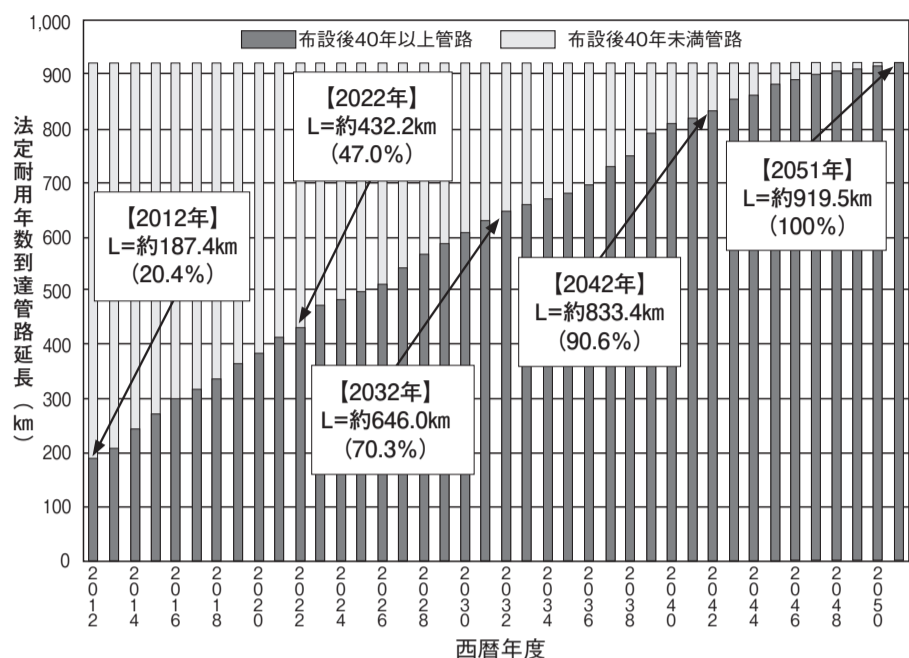
現在、釧路市水道管路は約920キロメートル布設されていますが、その20.4パーセントが2012(平成24)年度に法定耐用年数に達しており、今後、管路更新を行わない場合、2051(平成63)年度には全ての管路が法定耐用年数を迎えることになります。

このように老朽化が進む水道管路を更新するため、今後、膨大な更新費用が必要となることから、最も重要なライフラインである水道を将来世代にしっかりと引き継ぎ「未来を支え続ける安全で安定した信頼される水道」を確立するため、長期的視野に立った計画的な更新に向けての基本方針を以下のように策定しました。

釧路市水道管路が法定耐用年数(40年)に到達する時期

※管路更新を行わない場合。

※L=更新時期に達する水道管路の総延長を示します。



基本方針

基本方針①

将来世代との負担の公平化

施設の整備には水道料金収入、国庫補助金、借入金等が充てられますが、将来世代への負担を減らすため新たな借入れを抑制します。

基本方針②

事業費の平準化

財政負担を短期間に集中させないため、年度ごとの事業費が同程度となるよう計画的に事業を実施します。

基本方針③

管種ごとの更新基準の設定

厚生労働省・水道技術研究センター等の報告書に基づき、法定耐用年数(40年)にとらわれず、管種ごとの更新基準年数を設定します。

基本方針④

ダウンサイジングの推進

各地域の水使用特性に応じ、管路の統廃合や口径の縮小(ダウンサイジング)などを推進することにより、コストを削減し、効率的な水道水の供給を行います。

「未来を支え続ける安全で安定した信頼される水道」を目指します



基本方針⑤

耐震化の推進

耐震性能に優れた水道管(耐震管)を選定し、災害に強い信頼性のあるライフラインを確立します。

基本方針⑥

耐用年数・耐震性に優れた管種の選定

コスト削減や大規模地震における被害発生確率の減少等につながる「耐用年数・耐震性に優れた管種の選定」により、信頼できる安心安全なライフラインを構築します。

基本方針⑦

基幹管路の優先的整備

水を新釧路川から浄水場まで送る導水管、浄水場から配水池に送る送水管、配水池から各給水区域まで配水する配水本管を優先して整備していきます。

※配水池：出来あがった水道水を蓄えておく施設

基本方針⑧

重要施設に接続する配水支管の優先的整備

大規模災害時にも機能を維持しなければならない施設に接続している水道管路を優先的に整備します。

※配水支管：水道水を各家庭や施設まで届ける管路

基本方針⑨

財源の確保

経営の効率化や資産維持費の導入の検討の他、国費の導入を図るとともに、有利な起債の積極的な活用を図るなど、良質な資金の確保に努めます。

基本方針⑩

水道ビジョンに沿った事業の推進

2021(平成33)年度までは「釧路市水道ビジョン」に基づき更新を推進します。それ以降については、基本方針を土台とした基本計画、実施計画を策定し実施していきます。

節電で環境と家計にやさしい生活を

北海道の冬は、夕方早くから照明を点灯することで、電気の消費量がグンと上がります。

家庭で電力消費の多い時間帯の午後7時ごろには約1,000ワットを使用し、「照明」「冷蔵庫」「テレビ」で全体の4割以上を占めています。

外出中でも、冷蔵庫、温水洗浄便座などの電化製品の待機電力により、平均で250ワットの電力を消費しています。家庭で少しずつ電気の無駄を省く節電に取り組むことで、電気代の節約にもつながります。市ホームページに掲載している具体的な取り組みについてご覧いただき、節電を実践しましょう。

問合せ 市役所環境保全課環境管理担当 (☎31-4535)



<家庭の消費電力はどれくらい?>

家電製品の消費電力の測定器を無料で最大2カ月貸し出します。

申込用紙は市ホームページからもダウンロードできます。

申し込みは環境保全課(☎31-4535)へ。

無理のない範囲で節電に取り組みましょう